

2019年度 いさがわ幼稚園 学校評価報告書

0. 園の目標

生涯にわたる人格形成の基礎を培い、自ら感じ、自ら考え、自ら行動することのできる子どもを育成する。

1. 教育の目標

- ・ 正しい生活習慣を身に着けさせる。
- ・ 他人や生き物を愛することのできる、温かい心を育てる。
- ・ 智恵、心、体のバランスよい成長を目指す。

2. 今年度の重点目標

- ① 教育内容の見直し
- ② 保護者との連携
- ③ 安全管理体制の強化

3. 評価項目と取り組み状況

① 教育内容の見直し (a)

取り組み内容：行事を充実させることに集中するあまり、園生活が忙しくなり過ぎていないか検討し、園児の負担を軽減するとともに、ゆとりを持った時間構成の中で、友だちや先生との関係を深め、充実した園生活を送れるようにする。

取り組み状況：特に発表会前の時期は練習量も増え、自由に過ごす時間が減ることから、例年の音楽発表を削り、劇のみの発表会に変更した。また、運動会や作品展の内容も、年長児に負担がかかり過ぎていたためプログラムを調整し、日常の生活にゆとりを持たせた。これにより子どもから、練習ばかりで遊ぶ時間がないなどという声が聞かれなくなり園生活がゆとりを持ったものになった。

評 価 : A

① 教育内容の見直し (b)

取り組み内容：園の教育目標を基本として今年度の年間計画を立て、学級担任が情報共有することにより、園全体でバランスのとれた保育を進める。園児の健康やケガの状況などを報告する機会を日々設け、全職員が園全体の状況を把握できるようにする。

取り組み状況：園の教育目標や年間計画をもとに、月案を作成し、各学年が協力して、園全体の活動を進めてきた。毎日短時間ではあるが、当日の園児の欠席状況や、ケガ・子どもの様子等を知らせあった。他学年の様子を知ることで、学年を超えた活動等も連携をとりながら円滑に行うことができた。情報を共有することで、他学年・他学級への関心が深まり、幼児理解にも繋がったと思われる。また、異年齢交流の際にも、これらの情報が役立った。

評 価 : A

② 保護者との連携

取り組み内容：「保育中の子どもの様子が分からない」、「園で子どもがどのように過ごしているのか知りたい」という保護者の声が多いことから、できる限りこれを伝える努力を進める。また、園便りやホームページ、メールなどで、園の様子を伝える。

取り組み状況：毎日の降園時、当日の保育内容や幼児の様子を保護者に伝え、不十分な時は電話で報告をした。1学期に2回、3学期に1回、保護者との懇談機会を設け、園児の様子を伝えたり、家庭での様子を聞くなどして、お互いに幼児を深く理解できるよう努めた。また、メールの一斉送信サービスなどを利用して、行事前の注意事項など、情報の把握漏れがおきないように努めた。

評 価 : B

③ 安全管理体制の強化

取り組み内容：登降園に使用する出入口が2カ所あるため、極稀ではあるが、降園時に保護者と先生が連絡を取り合う際、園児が単独で園外に出てしまうことがあった。再発防止の為、登降園時の安全を一層高めるように務めた。

取り組み状況：登降園時の出入口を 1 カ所にまとめ、必ず職員が確認できるようにした。それ以来、子どもが単独で園外に出ることはなくなった。なお、徒歩で登園される方の中には、遠回りとなる場合もあったが、園児の安全の為ならと、理解頂けた。また、不審者や訪問販売業者の不法侵入を抑制することもでき、安心感が増した。

評 価 ：A

※ 評価の基準：(A) 十分達成されている、(B) 達成されている、(C) 取り組んだが成果は十分でない、(D) 取り組みが不十分である

4. 今後取り組むべき課題

① 教育内容の見直し

年中行事は内容が安定している反面、その詳細を見直す機会が失いがちである。常に詳細を見直し、これを改善する態度で取り組み、年中行事が園児にとってより有意義な経験になるよう努める。

② 保護者との連携

参観では、園児が緊張したり構えるので、必ずしも普段の様子を保護者に見せれるわけではない。今後は 1 日の子どもの様子をより詳細に伝えるとともに、普段の様子を見せるための具体的な方法を模索する。

③ 安全管理体制の強化

不審者対応を徹底するとともに、健康や安全に関する基本的な考え方を幼児でも理解できるように工夫して伝え、感染症や交通の安全教育にも積極的に取り組む。